２３　麻しん

（１）定義

麻しんウイルスによる急性熱性発疹性疾患である。

（２）臨床的特徴

潜伏期は通常10～12日間であり、症状はカタル期（２～４日）には３８℃前後の発熱、咳、鼻汁、くしゃみ、結膜充血、眼脂、羞明などであり、熱が下降した頃に頬粘膜にコプリック斑が出現する。発疹期（３～４日）には一度下降した発熱が再び高熱となり（３９～４０℃）、特有の発疹（小鮮紅色斑が暗紅色丘疹、それらが融合し網目状になる）が出現する。発疹は耳後部、頚部、顔、体幹、上肢、下肢の順に広がる。回復期（７～９日）には解熱し、発疹は消退し、色素沈着を残す。肺炎、中耳炎、クループ、脳炎を合併する場合がある。麻しんウイルスに感染後、数年から十数年以上経過してＳＳＰＥ（亜急性硬化性全脳炎）を発症する場合がある。

なお、上記症状を十分満たさず、一部症状のみの麻しん（修飾麻しん）もみられることがある。これはワクチンによる免疫が低下してきた者に見られることが多い。

（３）届出基準

ア　患者（確定例）

医師は、（２）の臨床的特徴を有する者を診察した結果、症状や所見から麻しんが疑われ、かつ、（４）の届出に必要な要件を満たすと診断した場合には、法第１２条第１項の規定による届出を直ちに行わなければならない。

イ　感染症死亡者の死体

医師は、（２）の臨床的特徴を有する死体を検案した結果、症状や所見から麻しんが疑われ、かつ、（４）の届出に必要な要件を満たすと診断した場合には、法第１２条第１項の規定による届出を直ちに行わなければならない。

（４）届出のために必要な要件

ア　麻しん（検査診断例）

届出に必要な臨床症状の３つすべてを満たし、かつ、届出に必要な病原体診断のいずれかを満たすもの。

イ　麻しん（臨床診断例）

届出に必要な臨床症状の３つすべてを満たすもの。

ウ　修飾麻しん（検査診断例）

届出に必要な臨床症状の１つ以上を満たし、かつ、届出に必要な病原体診断のいずれかを満たすもの。

届出に必要な臨床症状

|  |
| --- |
| ア　麻しんに特徴的な発疹 |
| イ　発熱 |
| ウ　咳嗽、鼻汁、結膜充血などのカタル症状 |

届出に必要な病原体診断

|  |  |
| --- | --- |
| 検査方法 | 検査材料 |
| 分離・同定による病原体の検出 | 咽頭拭い液、血液、髄液、尿 |
| 検体から直接のＰＣＲ法による病原体の遺伝子の検出 |
| 抗体の検出（ＩｇＭ抗体の検出、ペア血清での抗体陽転又は抗体価の有意の上昇） | 血清 |

**臨床診断例については、届出後であっても、血清抗体価の測定を実施するとともに、所在地の地方自治体に検体提出し、その結果について最寄りの保健所に報告していただき、検査結果等を総合的に勘案し、麻しんでないと判断された場合は届出の取り下げ等のご協力いただきますようお願いします。**

別記様式５－２３

麻　　し　　ん　　発　　生　　届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長）　殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第１２条第１項（同条第６項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日　令和　　年　　月　　日

医師の氏名

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地(※)

電話番号(※)　　　　　（　　　　　　）　　　　　　－

この届出は診断後直ちに行ってください

（※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載）

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| １　診断（検案）した者（死体）の類型 | | | |  |  | |  | |
| ・患者（確定例）　・感染症死亡者の死体 | | | |  |  | |  | |
| ２　当該者氏名 | ３性別 | | ４　生年月日 | | | ５診断時の年齢(0歳は月齢) | | ６　当該者職業 |
|  | 男・女 | | 年　　月　　日 | | | 歳（　　　か月） | |  |
| ７　当該者住所  電話（　　　）　　－ | | | | | | | | |
| ８　当該者所在地  電話（　　　）　　－ | | | | | | | | |
| ９　保護者氏名 | | 10　保護者住所　　　（９、10は患者が未成年の場合のみ記入） | | | | | | |
|  | | 電話（　　　）　　－ | | | | | | |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 病　　　　　型 | | | 13　感染原因・感染経路・感染地域 |
| 1)麻しん（検査診断例）　　2)麻しん（臨床診断例）  3)修飾麻しん（検査診断例） | | | ①感染原因・感染経路（　確定・推定　）  １　飛沫・飛沫核感染（感染源となった麻疹患者・状況：  （　　　　　　　　　　　　　　　　　 　）  ２　接触感染（感染源となった麻疹患者・物の種類・状況：  　　（　　　　　　　　　　　　　　 　　　　）  ３　その他（  　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　 ）  ②感染地域（　確定　・　推定　）  １　日本国内（　　　　　都道府県　　　　市区町村）  ２　国外（　　　　　　　　　　　国  詳細地域　　　　　　　　　　　　　　　　 　　　）  渡航期間  （　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　 　　　）  ③麻しん含有ワクチン接種歴  1回目　有（　　　　歳）・ 無 ・ 不明  ワクチンの種類（麻しん単抗原・ＭＲ・ＭＭＲ・不明）  接種年月日（ 　S・H・R 　 年　　月　　　日 ・不明）  製造会社/Ｌｏｔ番号（　　　　　　/　　　　　・不明）  2回目　有（　　　　歳）・ 無 ・ 不明  ワクチンの種類（麻しん単抗原・ＭＲ・ＭＭＲ・不明）  接種年月日（　S・H・R　　　年　　月　　　日 ・不明）  製造会社/Ｌｏｔ番号（　　　　　　/　　　　　・不明） |
| 11  症  状 | ・発熱（　月　日出現）　・咳　・鼻汁　・結膜充血  ・眼脂　・コプリック斑　・発疹（　月　日出現）  ・肺炎　　・中耳炎　　・腸炎　　・クループ  ・脳炎（急性脳炎の届出もお願いします）　・その他（　　　） |  | |
| 12  診断方法 | 陰性結果を含め実施したもの全て記載して下さい。   1. 分離・同定による病原体の検出   検体：　咽頭拭い液・血液・髄液・尿・その他（　　　　　）  検体採取日（　　　　　月　　　　　日　　　　　　　）  結果（　陽性・陰性　）  遺伝子型：（　　　　　　　　　　　　　　　　　）   1. 検体から直接のＰＣＲ法による病原体遺伝子の検出   検体：　咽頭拭い液・血液・髄液・尿・その他（　　　　　）  検体採取日（　　　　　月　　　　　日　　　　　　　）  結果（　陽性・陰性　）  遺伝子型：（　　　　　　　　　　　　　　　　　　 ）   1. 血清ＩｇＭ抗体の検出   検体採取日（　　　　　月　　　　　日　　　　　　　）  結果（　陽性・陰性・判定保留　）  　抗体価：（　　　　　　　　　　　　　　　　　 　　）   1. ペア血清での抗体の検出   検体採取日（ 1回目　 月　 日　2回目　 月　 日 ）  抗体価　　（ 1回目　　　　 　 2回目　　 　　 ）  結果：抗体陽転・抗体価の有意上昇  　検査方法： EIA ・ HI ・ NT ・ PA ・ その他（　　　）   1. その他の検査方法（　　　　　　　　　　　　　　）   　検体（　　　　　　　　　　　　　　　　　 　 　　）  検体採取日（　　　　　月　　　　　日　　　　　　　）  　結果（　　　　　　　　　　　　　 　　　　　　　　）   1. 臨床決定（　　　　　　　　　　　　　　　　　　） |
| 14　初診年月日　　　　　　　　　令和　　年　　月　　日  15　診断（検案(※)）年月日　　　令和　　年　　月　　日  16　感染したと推定される年月日　令和　　年　　月　　日  17　発病年月日（＊）　　　　　　令和　　年　　月　　日  18　死亡年月日（※）　　　　　　令和　　年　　月　　日 | |
| 19　その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のため  に医師が必要と認める事項 | |
|  | |

（1，3，11から13欄は該当する番号等を○で囲み、4，5,14から18欄は年齢、年月日を記入すること。

（※）欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。

（＊）欄は、患者（確定例）を診断した場合のみ記入すること。11,12欄は、該当するものすべてを記載すること。）